



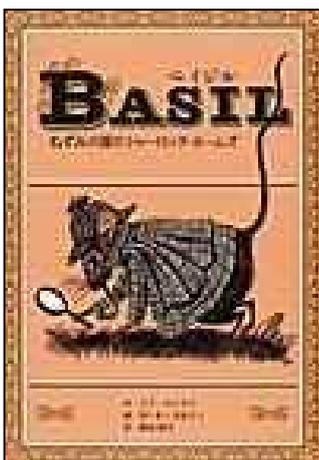
# ねずみがいっぱい!



みなさんは、「ね・うし・とら・う……」という「十二し（中国からつたわったこよみ）」を聞いたことがあるでしょう。その「十二し」のトップ・バターとなる「ねずみ年」にちなんで、ねずみが出てくる本をしょうかいします。

## 『 ベイジル — ねずみの国のシャーロック・ホームズ — 』

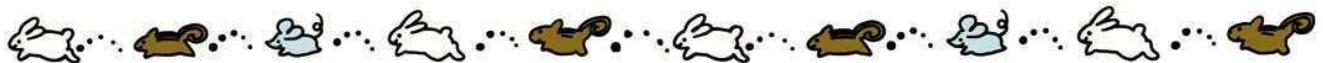
イブ・タイタス／作 ポール・ガルドン／絵 晴海 耕平／訳 (童話館出版)



ベイジルは、イギリス・ロンドンに住む、ねずみの国の名たんてい。そんなけいする人間の名たんていシャーロック・ホームズからこっそり学んだたんていじゅつで、むずかしい事けんを見事にかい決していきます。

ある日、ふたごの姉妹アンジェラとアガサが、学校から帰ると中でゆうかいされました。はん人は「きょうふの三人組」。そのねらいとは一体…?

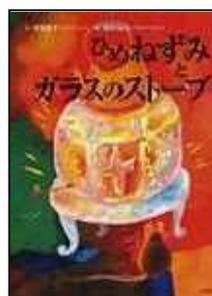
はたしてベイジルは、ふたごをぶ事に見つけ出せるのでしょうか。



## 『 フレデリック — ちょっとかわったのねずみのはなし — 』

レオ=レオニ／作  
谷川 俊太郎／訳  
(好学社)

なかまの野ねずみたちが冬にそなえてせっせと食りょうを集めているのに、フレデリックは何もしません。けれどもやがて冬になると、フレデリックはみんなが思いもよらないものをじゅんびしていました。



## 『 ひめねずみと ガラスのストーブ 』

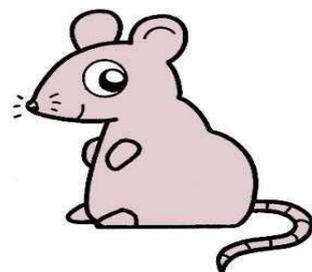
安房 直子／作  
降矢 なな／絵  
(小学館)

風の子なのに寒がりのフーは、すてきなガラスのストーブを手に入れました。ある日1ぴきのひめねずみと反だちになりますが、フーはひめねずみをして、遠い国へ行ってしまう。やがてフーがもどってみると、ひめねずみは…。

2020年は  
ねずみ年!



# ほん ねずみの本



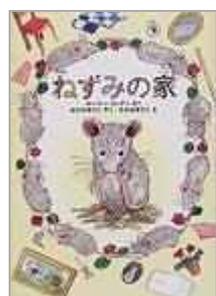
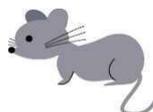
## 『やどなしねずみのマーサ』

アーノルド・ローベル／作

三木 卓／訳

(文化出版局)

ねずみのマーサは、雪のふる町で安心して住める家をさがしていました。すると、キラキラ光るえい画館を見つけます。中はあたたかくて、おいしいものがあって、まぶしいばかり。その上、毎日えい画を見ることができます。はたして、マーサはこのえい画館に住めるのでしょうか。



## 『ねずみの家』

ルーマー・ゴッデン／さく

おびか ゆうこ／やく

たかお ゆうこ／え

(徳間書店)

子ねずみボニーの家は大家族で、うえきばちの家はぎゅうぎゅうづめ。ボニーはいつも大きな家に住みたいと思っていました。

ボニーが見つけた家は広くて、ベッドはふんわりやわらか。けれども次の朝、外に出られなくなっていたのです。ボニーは泣きさけび、あばれまわります。



## 『モルモット・オルガの物語』

マイケル・ボンド／作

おおつか のりこ／訳

いたや さとし／絵

(PHP 研究所)

ペットショップからオガクズ一家へやってきたモルモットのオルガ。家をぬけ出してぼうけんに出かけたり、モルモットのコンテストに出場したりと、まわりをまきこんで、いつもおおさわぎ。しっばいやかんちがいも多いオルガですが、新しいなかまにかこまれて、にぎやかにくらしています。

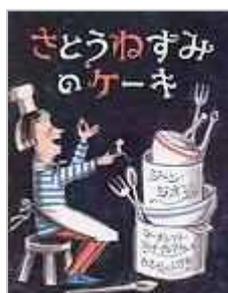


## 『十二支のはじまり』

岩崎 京子／文

二俣 英五郎／画

(教育画劇)



## 『さとうねずみのケーキ』

ジーン・ジオン／ぶん

マーガレット・ブロイ・グレアム／え

わたなべ しげお／やく

(アリス館)



## 『スチュアートの大ぼうけん』

E. B. ホワイト／著

ガス・ウィリアムズ／絵

さくま ゆみこ／訳

(あすなる書房)